

を創設し、鑑定營業を爲す者あり。

銀壹兩は銅錢(制錢)千三百文、乃至千六百文内外弗ドルは一千文内外の價格なるも、時と處に因りて同じからず。

前述の如く、銀兩は、其量目確實に一定し在らざるが故に、使用の都度、之が量目を檢せざるべからず、之を商店の秤に委せんか、間、狹猾の輩なきに非らず、故に支那内地旅行者は、小なる權衡を所持するの必要あるなり、煩も亦甚しと謂ふべし。

以上は支那全體の通貨に就て概略を記述せるものなり、新疆の通貨は、少しく異なるもの有り、左に之を述ぶべし。

新疆省通貨

銀貨、烏魯木齊、喀什噶爾の二個處に銀元局ありて圓銀を鑄造す、其種類四種あり、壹兩、伍錢、參錢、貳錢とす。然れども其鑄造額少きに因り、未だ普及に至らず、故に商業取引は固より旅客は依然銀兩を携行するの不便を忍ばざるべからず、各開港場附近に流通する各種の弗ドルは通用せず、只露國の金、銀貨は、烏魯木齊、塔爾巴哈臺、伊犁、喀什噶爾附近に於てのみ、商人間に通用す、其比價は不定なるも、大概壹ルドル一ブル